

古文書を読む会学習記録

作成日 平成30年6月30日

開催日	平成30年6月28日	時 間	10:00～12:00
場 所	金沢公会堂リハーサル室	出席人数	14名
講 師	真田雅行氏	作成者	平山 次清
テーマ	第二学習 艱難実録(中)⑩ P46～P49の右半分まで		
概要	<p>P46 右:榎本艦隊の船に乗れない兵隊のうち、桑名・小笠原藩の者は、俊三(歳三)が引き受け、一方の松山藩の者は駄目という話もあったが、折衝の末結局は承諾された。</p> <p>P46 左:御三公が小舟で近づいて開陽艦に乗り込もうとしたが、悪風で断念した。しかしながら官軍が塩釜近辺まで来ているとのことで、とにかく御三公だけでも速く乗り込むことになった。私と成瀬は、里浜に行った御三公と東名で出会ったが、一同はまだ乗船できず、この事を寒風沢にも伝えた。</p> <p>P47 右:再度東名より小舟で開陽艦に向かったが又もや風悪く山影に避難し、結局東名に戻った。私も東名に戻った翌朝、三家の兵隊は東名を通り石巻に向かった。東名の宿は最初はむさくしい漁師の家であったがその後村役の家に宿替えした。その夜、旧幕方で、降伏して仙台より脱走した、細倉謙左衛門が来た。</p> <p>P47 左:私は不在であったが、日光の宮様からの使い(僧侶・三宅大学・ほか)と一緒に来ているとのことで、私は御三公の旅宿に出向き細倉と会った所、御三公には、明朝拝謁し降伏するよう申し上げたいとの事であった。ところが御三公は今朝開陽艦に乗船されていることを聞かされて、細倉は大いに残念がり、開陽艦に行って話すとのことであった。</p> <p>P48 右:その事を御三公に伝えたところ、御三公は明早朝発って石巻に向かうとのことであった。その夜は、御三公は(まだ開陽艦には乗船していなかったようだ)、開陽艦に2度になわって乗船できなかったことから気も滅入っており、夜通し焼火をしたり囲炉裏を囲んで、今後について話し合われた。寝ないで溜息ばかりであった。私は一人起きていて世話をやきながら涙を流した。翌早朝御三公は東名を発ち石巻へ。御供の4人は徒歩で石巻へ。私ほか2名は荷物番で留まり、翌朝発って石巻に夜着いたところ「今朝、御三公・御供の4人も開陽丸に乗りこまれた」とのことであった。</p> <p>P48 右:但し、後から来た3名(私ほか2名)は乗り込みは駄目で、東名の名主方に居るように言われた。しかしながら、沢山の荷物だけでも先に船に乗せたいということで、翌朝荷物を載せた船で開陽に行ったところ、荷物は積みこむが3名は駄目ということで、東名に居たところ、開陽の士官が来て、乗船可という話となった。</p> <p>P49 右:開陽艦をはじめ諸艦には、兵糧・薪炭(蒸気船に必要)・食料・機械などを十分積み込む必要があるが、積み込み作業中は、必要な人数以外は、船にとって無用な出費となるので、やはり陸にいてくれとの事であった。乗り込みの連絡が来た(日時は失念)ので私と松岡・白井の3名は東名から乗り込み、開陽艦の機関室の上中段に居住したが、三公は船将部屋居住になったので、用が無ければお目どりでできなかった。また船中規則もあり大いに当惑した。なお開陽はまだ修理中で勝見浦にしばらく留まった。</p> <p>注)「古文書には必ずしも真実でない記載がある」といった指摘が真田代表よりあった。</p>		
次回予定	平成30年7月12日 金沢公会堂リハーサル室 第一学習 野島浦鈴木家文書⑧		